

「未来に伝える朝日町の歴史的建造物」 現地見学会対象の建造物①

① 旧和合警備所

昭和10年(1935)に建設されたとされ、当時の近代風コンクリート造りの消防ポンプ小屋は県内でも珍しい建物です。警備所として使われていた頃は、養蚕が盛んな時で、春蚕・秋蚕時に10日間ほど、火の用心のために消防団員が4名ずつ交替で詰め、夜警(寝ずの番)、あるいは部落内の巡回に当たっていたそうです。今は宿区のゴミ集積所及び待合所あるいは雨宿り場所として使われています。



② 新宅今井家

明治24年(1891)前田沢の今井五郎八家の新宅(分家)として建てられたもので、分家された3軒が隣合わせで並んでいる。今井家は江戸時代末期に青苧等の買次問屋として商業を営みながら、土地の集積を進め商人地主となり、明治時代の半ば頃5代目今井五郎八が生糸取引等の自家経営に専念して財をなしていた時期に分家したものです。建坪は約100坪あり、側廻りはサッシュに変更されていますが、そのほかの改変は少ないようです。敷地は約1000坪あり、庭木が豊富で土蔵もあります。



③ 旧高田家住宅(現今井家)

新宿地区は、今井治郎三郎家の生糸製造工場があり、特に養蚕が盛んな地区でした。屋根構えの大きな家が多く残っているのは、屋根裏を蚕室に使っていたからです。特に大きな旧高田家住宅は、遠方からも買い付けに来る蚕の種屋を営んでいたとされています。



④ 旧新宿警備所

明治時代に建てられたものと思われ、トタン葺きにする前は木端(こば)葺きでした。1階は「ポンプ庫」で、2階は「火の見櫓(やぐら)」として使われていました。集落全体が見渡せるような高さはありませんが、小型タワーのような形だけでなく、2階にある扇型の窓など個性的な意匠が見られます。建っている場所はかつて今井治郎三郎家があった所に接していることから、今井家との関わりが考えられます。



⑤ 旧宮宿郵便局

大正13年(1938)にできたこの建物は、五百川地区の郵便、電信・電話を取り扱っており、1階は郵便局、2階は電話交換室として利用されていました。建造した時から、棟続きの鈴木家の当主であった鈴木栄三郎氏が郵便局長として務めており、郵便局が道向いに移った際に辞められています。その後は信用組合や歯科医院、学習塾等に使用されていますが、現在は使われておりません。洋風の形状といい、トタン屋根やモルタルの吹き付け等、できた当時は珍しい建物だったそうです。

